

ユーザーズガイド

DxO FilmPack v1.1

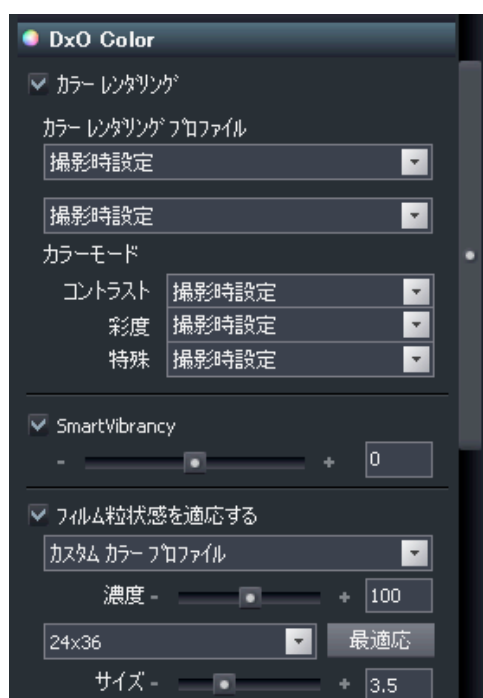
DxO FilmPack v1.1 には 3 つのバージョンが存在します。

- 1 . DxO Optics Pro v4.2 用のプラグイン
(スターター、スタンダード、エリート、全ての版に対応)
- 2 . Adobe Photoshop 用プラグイン
(CS2、CS3、Elements 4 または 5 に対応)
- 3 . 独立して機能する、スタンドアロン版
(Mac OS X 10.3 と 10.4、Windows 2000、XP、または Vista)

1. DxO Optics Pro v4.2 用のプラグイン

DxO FilmPack は、DxO Optics Pro の機能を補完するソフトです。その目的は、デジタル画像に有名な銀塩フィルムの画像感 (色と粒状感) を再現することです。

Kodachrome、Tri-X、Velvia 等、20 以上のフィルムタイプの色と粒状感を解析、それぞれのフィルムに特有な画質感を、デジタルカメラで撮影した画像にシングルクリックで再現可能にしました。DxO FilmPack は、Kodachrome 64 の色鮮やかな発色、Tri-X の滑らかな粒状感、Astia の肌色の落ち着いた色調を、デジタル写真でシミュレートします。また、DxO FilmPack には、あらゆるデジタル画像に、エレガントな黄土色、緑青、または青みがかったトーンを加えるための「調色 (トーニング) 」機能が新たに加われました。また、粒状感と色の全ての組み合わせにより更なる創造性を可能にします。



DxO FilmPack の使い方

DxO FilmPack の諸機能には、エキスパートモードの〔DxO Color〕パレットからアクセスできます。まず、〔カラーレンダリング〕のチェックボックスが、チェックされているか確認してください。すぐ下の〔カラーレンダリングプロファイル〕メニューに新しいオプションが加わっています。例えば、カラーポジフィルム、カラーネガフィルム、白黒ネガフィルム、クロス処理です。このうちの1つを選択すると、その下のメニューでお好きなフィルムタイプを選択することができます。

DxO Optics Pro の持っている補正機能と DxO FilmPack の機能を合わせて使うことが可能です。例えば、カラーネガフィルムを選択した場合、DxO Lighting や、ホワイトバランスのパレットにあるスライダーを使って自分なりの色の「焼付け」をすることができます。

DxO FilmPack には、クロス処理という2つの特殊なレンディングが備わっています。スライド用フィルムの現像処理（例えば Kodak Elite™ 100）を、ネガフィルムの現像工程で、ネガフィルム（Fuji Superia™ 200）に適用したりするものです。これにより、銀塩写真時代の「お遊び」的なオリジナルな効果を、デジタル写真で得ることができます。

DxO FilmPack を DxO Optics Pro の中で利用することにより、DxO Optics Pro が特に RAW 形式の画像に対して持つすばらしい自動補正機能を存分に利用することが可能です。DxO FilmPack の効果を最大に引き出すためには、RAW 形式の画像から処理を行うのが最適です。

調色処理（トーニング）

DxO FilmPack v1.1 には、モノクロームの「調色処理（トーニング）」をデジタル画像で再現する5つの新しいカラーモードが新たなオプションとして加わっています。〔カラーモード〕の〔特殊〕メニューからアクセスできます。（冷たい→暖かい順に）金（冷たく青みがかったトーン）、酸化鉄（緑青）、セレン（灰色がかった茶色）、土色セピア（タバコ色テイント）、金セピア（黄土色 / 茶色デュオトーン）、および DxO Optics Pro の過去バージョンでも提供されていたセピア（黄色）があります。

なおトーニングは、〔カラーレンダリング プロファイル〕メニューで選択したフィルムとは独立したカラーモードとして適用されます。それぞれのフィルム固有のコントラストカーブに依存するため、例えば Kodak Tri-X と Ilford HP5 を使って「作られた」画像はまったく同じものにはなりません。

粒状感

画面右の、〔フィルム粒状感を適応する〕チェックボックスが、マークされているか確認してください。その下の、〔カラープロファイル〕メニューが有効になり、お好きなフィルムの粒状感を選択し

ていただけます。前に、〔カラーレンダリングプロファイル〕で、特定のフィルムを選択していなくても、独立してフィルムの粒状感を適応することができます。ここでは粒状感に関して様々な調整が可能です。例えば〔カラーレンダリングプロファイル〕で選んだものと同じフィルムの粒状感を選択することも、別のフィルムを選択することもできます。また、粒状感は〔画質向上〕タブ上で、100%以上のズームでないとも視確認できないのでご注意ください。

次に、粒状感の〔濃度〕を、スライダーを使って調整することができます。値が 100 の場合、オリジナルフィルムの粒状感にもっとも近くなり、この値を増減することによって粒状感を抑えたり、誇張したりできます。また粒子の〔サイズ〕も調整が可能です。銀塩写真時代の三つの代表的なフォーマット (小型フォーマット 24×36、中型フォーマット 6×6、大型フォーマット 4×5) から選ぶことができます。また、スライダーを使ったり、あるいは数値を入力することで、粒子のサイズを調整することができます。

2. Adobe Photoshop 用のプラグイン

DxO FilmPack には、Adobe Photoshop 用のプラグイン版も用意されています。機能上は、全く同じです。その目的は、デジタル画像に有名な銀塩フィルムの画像感 (色と粒状感) をシミュレートすることです。Kodachrome、Tri-X、Velvia 等、20 以上のフィルムタイプの色と粒状感を解析、それぞれのフィルムに特有な画質感を、デジタルカメラで撮影した画像にシングルクリックで再現可能にしました。DxO FilmPack は、Kodachrome 64 の色鮮やかな発色、Tri-X の滑らかな粒状感、Astia の肌色の落ち着いた色調を、デジタル写真でシミュレートします。また DxO FilmPack には、あらゆるデジタル画像にエレガントな黄土色、緑青、または青みがかったトーンを加えるための「調色 (トーニング)」機能が新たに加われました。また、粒状感と色の全ての組み合わせにより更なる創造性を可能にします。



DxO FilmPack の使い方

DxO FilmPack の諸機能には、Photoshop 内の〔フィルター〕メニューを開き、〔DxO labs〕を選択することで、アクセスできます。これにより、作業中の画像を表示する画面が開きます。画面の右に、カラープロファイルの選択メニューがあります。プロファイルのタイプを選ぶことにより、その下のメニューから対応するフィルムを選択できます。

DxO FilmPack には、クロス処理という、2つの特殊なレンディングが備わっています。スライド用フィルムの現像処理（例えば Kodak Elite™ 100）を、ネガフィルムの現像工程で、ネガフィルム（Fuji Superia™ 200）に適応したりするものです。これにより銀塩写真時代の「お遊び」的なオリジナルな効果を、デジタル写真で得ることができます。

調色処理（トーンング）

DxO FilmPack v1.1 には、モノクロームの「調色処理（トーンング）」を、デジタル画像で再現する5つの新しいカラーモードが新たなオプションとして加わっています。〔カラーモード〕の、〔特殊〕メニューからアクセスできます。（冷たい→暖かい順に）金（冷たく 青みがかったトーン）、酸化鉄（緑青）、セレン（灰色がかった茶色）、土色セピア（タバコ色ティント）、金セピア（黄土色 / 茶色デュオトーン）、および DxO Optics Pro の過去バージョンでも提供されていたセピア（黄色）があります。

なおトーンングは、〔カラーレンダリング プロファイル〕メニューで選択したフィルムとは独立したカラーモードとして適用されます。それぞれのフィルム固有のコントラストカーブに依存するため、例えば Kodak Tri-X と Ilford HP5 を使って「作られた」画像は、まったく同じものにはなりません。

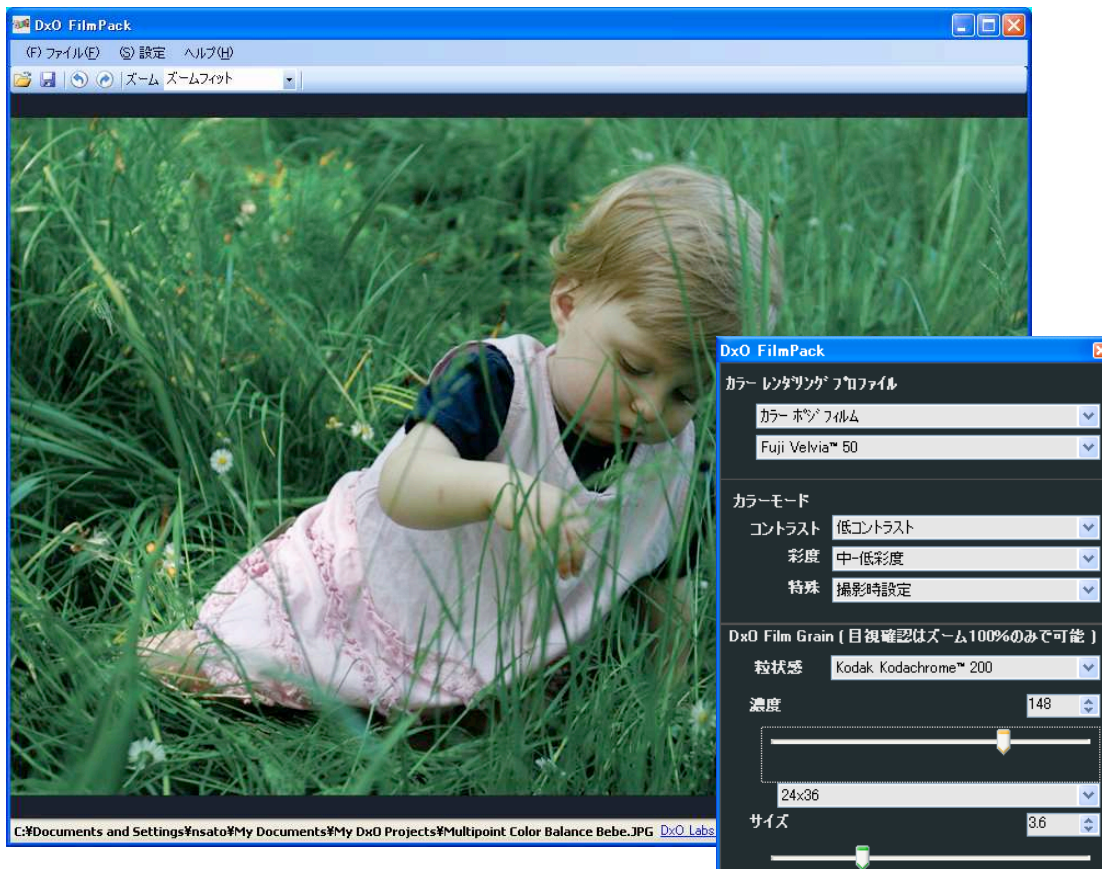
粒状感

画面右の、〔DxO FilmGrain〕の、〔カラープロファイル〕メニューから、好きなフィルムの粒状感を選択していただけます。〔カラーレンダリングプロファイル〕で、特定のフィルムを選択してなくても、独立してフィルムの粒状感を適応することができます。ここでは粒状感に関して様々な調整が可能です。例えば〔カラーレンダリングプロファイル〕で選んだものと同じフィルムの粒状感を選択することも、別のフィルムを選択することもできます。また、粒状感は 100%（実物大）のズームでないと目視確認できないのでご注意ください。

次に、粒状感の〔濃度〕を、スライダーを使って調整することができます。値が 100 の場合、オリジナルフィルムの粒状感にもっとも近くなり、この値を増減することによって粒状感を抑えたり、誇張したりできます。また粒子の〔サイズ〕も調整が可能です。銀塩写真時代の三つの代表的なフォーマット（小型フォーマット 24×36、中型フォーマット 6×6、大型フォーマット 4×5）から選ぶことができます。また、スライダーを使ったり、あるいは数値を入力することで、粒子のサイズを調整することができます。

3. DxO FilmPack v1.1, スタンドアロン版

DxO FilmPack には、今回から、独立したソフトとして利用できるスタンドアロン版が用意されています。その目的は、デジタル画像に有名な銀塩フィルムの画像感（色と粒状感）をシミュレートすることです。Kodachrome、Tri-X、Velvia 等、20 以上のフィルムタイプの、色と粒状感を解析、それぞれのフィルムに特有な画質感を、デジタルカメラで撮影した画像に、シングルクリックで再現可能にしました。DxO FilmPack は、Kodachrome 64 の色鮮やかな発色、Tri-X の滑らかな粒状感、Astia の肌色の落ち着いた色調を、デジタル写真でシミュレートします。また、DxO FilmPack には、あらゆるデジタル画像にエレガントな黄土色、緑青、または青みがかったトーンを加えるための「調色（トーンニング）」機能が新たに加わりました。また、粒状感と色の全ての組み合わせにより更なる創造性を可能にします。



DxO FilmPack の使い方

DxO FilmPack は、〔DxO FilmPack〕アイコン上でダブルクリックすることで起動します。〔ファイル〕メニューから、または、画面上に、ドラッグ&ドロップをして、画像（JPEG 形式、Tiff 8 または 16）を取り込むことができます。独立したウインドウの〔DxO FilmPack〕パレット上に、カラープロファイルの選択メニューがあります。プロファイルのタイプを選ぶことにより、その下のメニューから対応するフィルムを選択できます。

DxO FilmPack には、クロス処理という、2つの特殊なレンディングが備わっています。スライド用フィルムの現像処理（例えば Kodak Elite™ 100）を、ネガフィルムの現像工程でネガフィルム（Fuji Superia™ 200）に適応したりするものです。これにより、銀塩写真時代の「お遊び」的なオリジナルな効果を、デジタル写真で得ることができます。

調色処理（トーンング）

DxO FilmPack v1.1 には、モノクロームの「調色処理（トーンング）」をデジタル画像で再現する5つの新しいカラーモードが新たなオプションとして加わっています。〔カラーモード〕の〔特殊〕メニューからアクセスできます。（冷たい→暖かい順に）金（冷たく 青みがかったトーン）、酸化鉄（緑青）、セレン（灰色がかった茶色）、土色セピア（タバコ色テイント）、金セピア（黄土色 / 茶色デュオトーン）、および DxO Optics Pro の過去バージョンでも提供されていたセピア（黄色）があります。

なお、トーンングは、〔カラーレンダリング プロファイル〕メニューで選択したフィルムとは独立したカラーモードとして適用されます。それぞれのフィルム固有のコントラストカーブに依存するため、例えば Kodak Tri-X と Ilford HP5 を使って「作られた」画像は、まったく同じものにはなりません。

粒状感

まず〔DxO FilmPack〕パレット内の、〔DxO Film Grain〕の、〔粒状感〕メニューから、お好きなフィルムの粒状感を選択していただけます。〔カラーレンダリングプロファイル〕で、特定のフィルムを選択していなくても、独立してフィルムの粒状感を適応することができます。ここでは粒状感に関して様々な調整が可能です。例えば〔カラーレンダリングプロファイル〕で選んだものと同じフィルムの粒状感を選択することも、別のフィルムを選択することもできます。また、粒状感は 100% 以上のズームでないと目視確認できないのでご注意ください。

次に、粒状感の〔濃度〕を、スライダーを使って調整することができます。値が 100 の場合オリジナルフィルムの粒状感にもっとも近くなり、この値を増減することによって粒状感を抑えたり、誇張したりできます。また、粒子の〔サイズ〕も調整が可能です。銀塩写真時代の三つの代表的なフォーマット（小型フォーマット 24×36、中型フォーマット 6×6、大型フォーマット 4×5）から選ぶことができます。また、スライダーを使ったり、あるいは数値を入力することで、粒子のサイズを調整することができます。